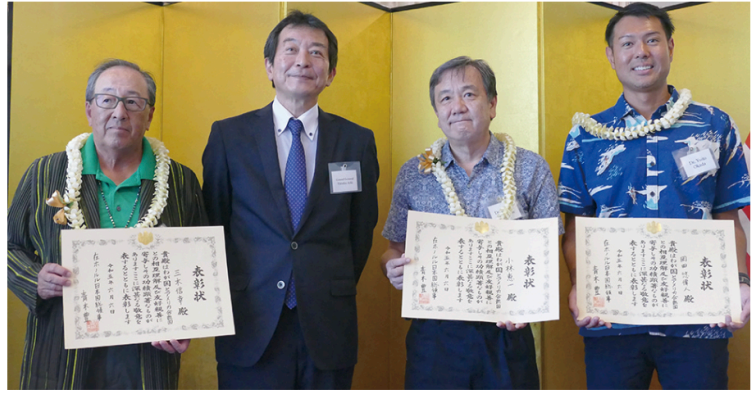




令和5年度 在外公館長表彰授与式

令和5年6月6日(火)、在ホノルル日本国総領事公邸にて、邦人及び日系人の方々への 新型コロナウイルス感染症にかかる情報発信や医療提供等において貢献された、三木信幸氏(クアキニ病院副院長)、小林恵一氏(聖ルカ・クリニック院長)、岡田悠偉人氏(ハワイ大学 がんセンター疫学専門家)の3名へ在外公館長表彰授与式が行われました。



新型コロナが完全に終息するという事は難しいが、ポストコロナの時代に入り、ハワイにおける日本人及び日系人の結束を感じられる喜ばしい時間となりました。

(1)三木信幸氏(クアキニ病院副院長)

ハワイ州でのワクチン接種状況や感染状況を在ホノルル日本国総領事館に情報提供するとともに、邦人及び日系人をはじめとするハワイの方々への医療提供及び感染症対策に貢献されました。また、ダニエル・K・イノウエ国際空港から罹患者が搬送されてくる病院であったり、一時期は入院患者3割がコロナ患者で占める事態となりました。

(2)小林恵一氏(聖ルカ・クリニック院長)

日本政府の「海外在留邦人・日系人の生活・ビジネス基盤事業」を通じてワクチンを打てない学生をはじめ、ハワイ在住者への無料PCR検査を提供するなど、感染症対策に貢献されました。

(3)岡田悠偉人氏(ハワイ大学がんセンター疫学専門家)

ハワイ州コロナ対策専門家チームのメンバーとして、ハワイ州の水際措置「セーフ・トラベル・プログラム」の制度設計に貢献されたほか、ハワイにおいて、新型コロナウイルス感染症に係る情報を日本語にて発信されました。

在外公館長表彰授与式では、青木総領事から新型コロナウイルス感染症拡大期における



表彰状を授与される小林先生

日本語での情報発信やコロナ検査の提供、人の往来の再開に向けた各受賞者の貢献に対するお礼の言葉を述べられました。

続いて、表彰状が授与され、各受賞者がスピーチを行いました。最後に、木下慎一郎氏(日本クラブ会長)が来賓を代表して祝辞が述べられました。

三木氏「三年間、日本国総領事館や日系企業とも意見交換しながら、ハワイの医療従事者が団結して危機を乗り越えることに貢献でき喜ばしい」

小林氏「コロナは医療機関だけではなく社会全体で取り組まなければならない課題である中、日本政府による生徒向けの無料PCR検査の実施ができたのは、領事館のお力添えがあったからこそスムーズに行えた」

岡田氏「『セーフ・トラベル・プログラム』により日本とハワイとの人の往来の再開に貢献でき喜ばしい。今後も日本人、日系人コミュニティの交流に貢献していきたい」

(取材・文 猪俣和泉)